

2013年9月の大気大循環と世界の天候

大気大循環

月平均500 hPa 高度を見ると、バレンツ海付近ではブロッキング高気圧が発達し、黒海の北ではトラフ（負偏差）が明瞭だった。本州付近から太平洋中部にかけては、ジェット気流が平年の位置から北偏したことに伴って、帯状に広く正偏差となった。太平洋中部から北米にかけては正偏差と負偏差が交互に並ぶ波列パターンが卓越し、北米西岸でトラフ、北米中部でリッジとなった。

熱帯の対流活動は、アラビア海から南シナ海、太平洋西部にかけてと中米で平年より活発、太平洋中・東部で不活発だった。赤道季節内振動に伴う対流活発な位相は上旬から中旬にかけてインド洋からインドネシア付近を東進し、下旬には太平洋西部に位置した。対流圏下層の赤道域では、インド洋からインドネシア付近で西風偏差、太平洋中部で東風偏差だった。対流圏上層ではチベット高気圧が平年より強く、北太平洋中部のトラフは平年より深かった。南方振動指数は+0.4だった。

世界の天候

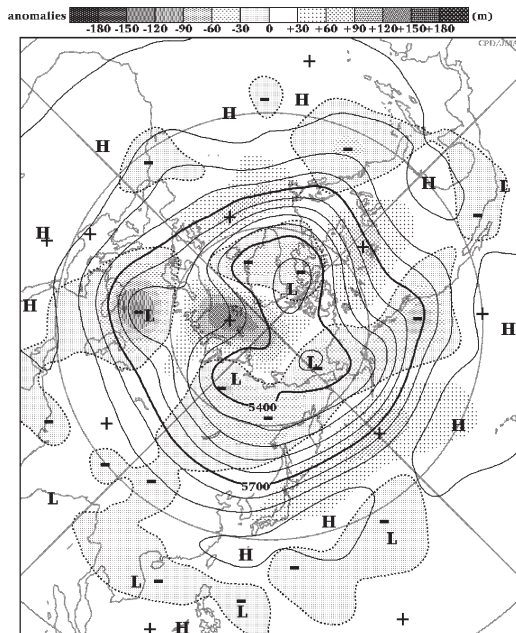
2013年9月の世界の月平均気温偏差は+0.23°C（速報値）で、1891年の統計開始以来、2番目に高い値となった。9月の世界の平均気温は、上昇傾向が続いており、長期的な上昇率は約0.60°C/100年（速報値）である。主な異常天候発生地域は次のとおり。

- 中央アジア北西部～ヨーロッパ東部では低気圧や前線の影響を受け、異常多雨となった。
- メキシコではハリケーンの影響を受け、異常多雨となった。
- オーストラリア中・東部では異常高温となった。9月のオーストラリアの平均気温は、統計を開始した1910年以降で最も高かった（オーストラリア気象局）。

（気象庁 地球環境・海洋部 気候情報課）

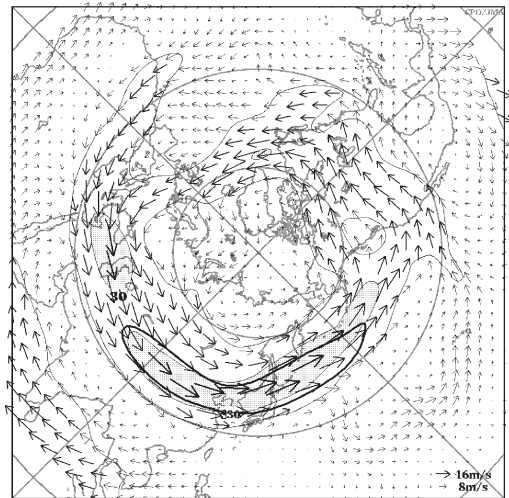
※ より詳細な情報については、気象庁ホームページ「気候系監視速報」をご覧ください。

<http://www.data.jma.go.jp/gmd/cpd/diag/sokuho/index.html>



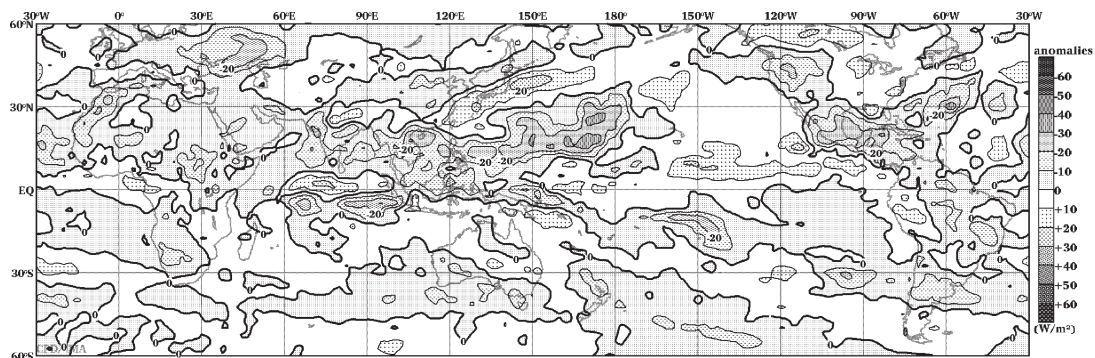
2013年9月の北半球月平均500 hPa 高度および平年偏差

等値線間隔は60 m。陰影は平年偏差。平年値は1981～2010年のデータから作成。

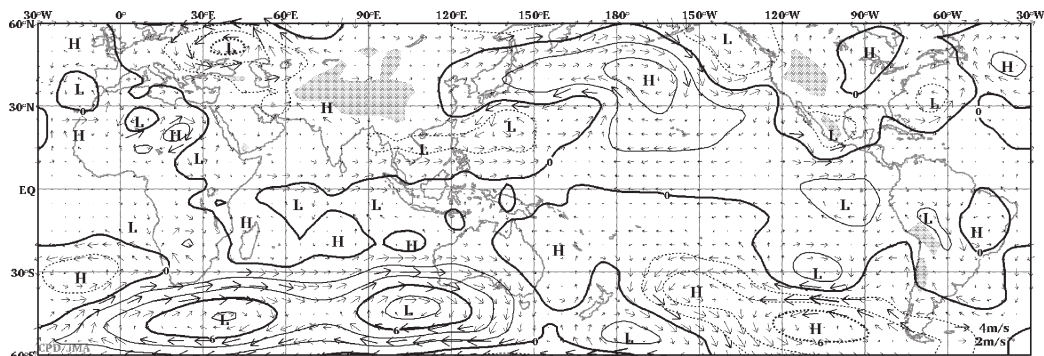


2013年9月の北半球月平均200 hPa 風速および風ベクトル

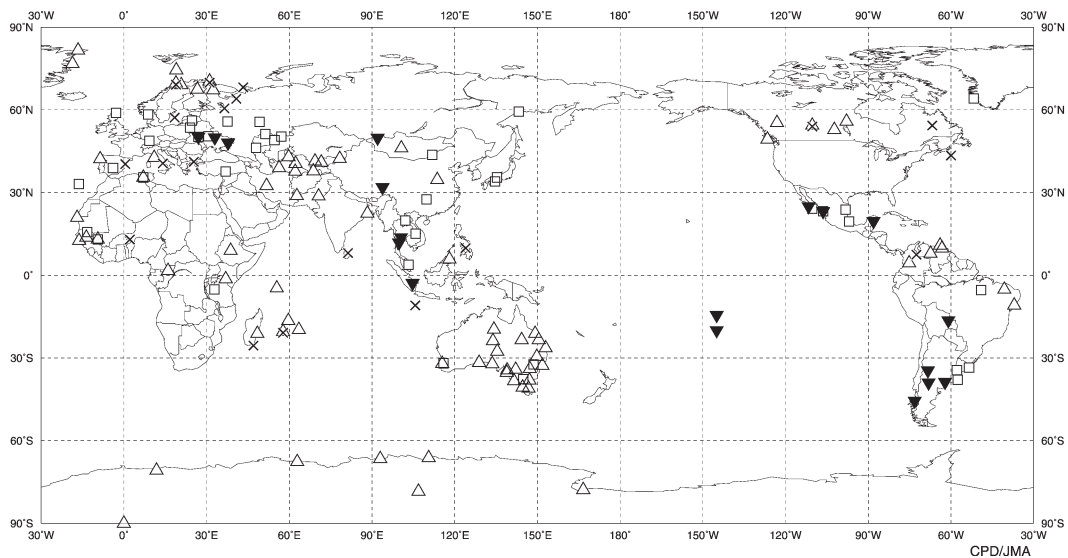
等値線間隔は15 m/s。陰影部は30 m/s以上。太実線で囲まれた領域は平年の30 m/s以上の領域を示す。平年値は1981～2010年のデータから作成。



2013年9月の月平均外向き長波放射量年偏差
 等値線間隔は10 W/m²で、値が小さいほど対流活動が活発であったと推測される。元データは NOAA。年偏差は1981~2010年のデータから作成。



2013年9月の月平均850 hPa 流線関数年偏差および風年偏差ベクトル
 流線関数の偏差の等値線間隔は $2 \times 10^6 \text{ m}^2/\text{s}$ 。年偏差は1981~2010年のデータから作成。



2013年9月の世界の異常天候分布図 △異常高温 ▼異常低温 □異常多雨 ×異常少雨
 異常高温・低温は標準偏差の1.83倍以上、異常多雨・少雨は降水5分位値が6および0。